

【概要版】 障害者

アンケート調査報告書

**障害者計画・第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画
策定のためのアンケート調査実施について**

(目的)

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第88条により障害福祉サービスの推進を図るため、各年度における障害福祉サービス・相談支援の種類ごとの必要な量の見込みその方策等の策定をする第5期障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画を策定するにあたり、障害者から障害福祉サービスのニーズや見込み量を推察するためにアンケート調査を実施するとともに、サービス提供事業所に対しサービス提供時の現状や事業計画等についてもアンケート調査を実施するものである。

(実施主体) 健康福祉部 福祉課

(調査対象者等)

- ① 身体障害…身体障害者手帳取得者のうち、75歳以下の方で、64歳までは全取得者、65歳以上の手帳取得者のうち、要介護認定者を除くもの。
- ② 知的障害…療育手帳取得者のうち64歳までは全取得者、65歳以上の手帳取得者のうち、要介護認定者を除くもの。
- ③ 精神障害…手帳所持者・自立支援医療(精神通院医療)受給対象者 64歳までは全取得者、65歳以上の手帳取得者のうち、要介護認定者を除くもの。
- ④ 障害児の保護者
- ⑤ 手帳を持たないサービス利用者

(回答数の内訳)

調査対象	調査数 (郵送)		回答数	回答率
児童の保護者	337人		182人	54.0%
身体	1,817人		1,111人	61.1%
精神	518人	946人	458人	48.4%
精神通院医療	428人			
知的	701人		409人	58.3%
	3, 801人		2, 160人	56. 8%

(実施内容) 別添調査票のとおり

(実施期間) 平成29年6月15日から平成29年7月7日

(実施方法) 郵送により対象者等あてアンケート調査票を送付し、郵送により回答を得る。

(その他) 実施後、特定されない形で結果を集計し見込み数量を検討するための基礎資料とするとともに、施策推進協議会、自立支援協議会等へ情報提供するものとする。

このアンケート報告書で「身体」とは身体障害者、「知的」とは、知的障害者、「精神」とは、精神障害者を示す。

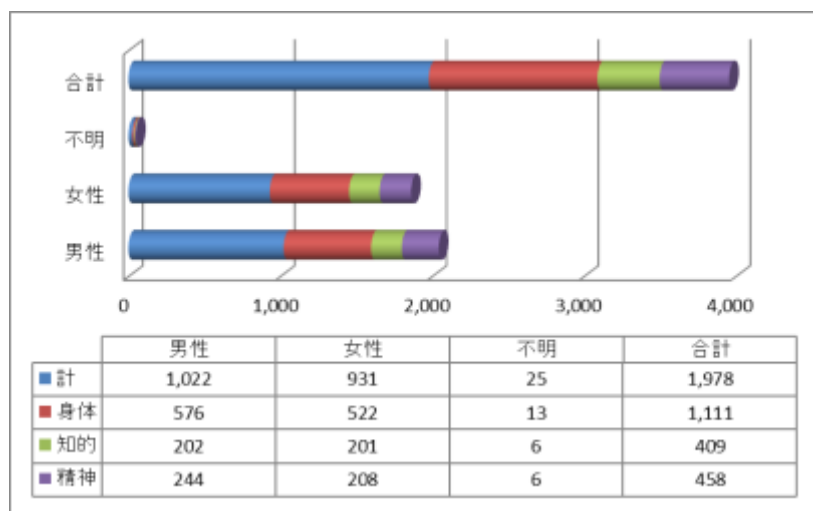
問1 この調査に回答していただく方は、どなたですか。(1つに〇)



身体…1,111人 知的…409人 精神（精神通院医療を含む）…458人

身体・精神は、9割弱が、本人回答となっており、知的は、44%が家族回答となっている。

問2 あて名ご本人の性別と平成29年6月1日現在の年齢をお答えください。



障害種別関係なく、男女とも回答を頂いている。

年齢構成では、全体で最も多く回答いただいた年代は、40歳以上64歳以下の方で、身体は、65歳以上の回答が最も多い。知的は、39歳以下が最も多い。

問3 あて名のご本人がお持ちの手帳や障害について、あてはまるものすべてに〇をしてください。

身体障害者手帳

1級所持者の回答が最も多く、次いで4級の回答が多くなっている。

身体障害者の機能障害別内訳

肢体不自由、内部機能障害の順で回答が多い、特に内部機能障害の1級の方からの回答が多い。肢体不自由では、4級の回答者が最も多い。

療育手帳は、B判定の回答者が最も多い。

精神保健福祉手帳は、精神通院医療の分類を回答欄に設けなかったため、精神通院医療のみの回答か、否かは不明であるが、医療または手帳所持不明の方が最も多い。

その他の障害として回答いただいた数値になっている。知的で、発達障害がある方が多くなっている。

問4 障害者手帳をはじめて交付されたのはいつですか。(1つに○)

身体、精神は、64歳までの時期が最も多く、知的は、39歳までの時期が最も多い。

問5 あなたが現在受けている医療の支援をご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

服薬管理が最も多く、次いで人工透析、カテーテル留置等となっている。

問6 現在、あて名のご本人が暮らしているところは、次のどれですか。(1つに○)

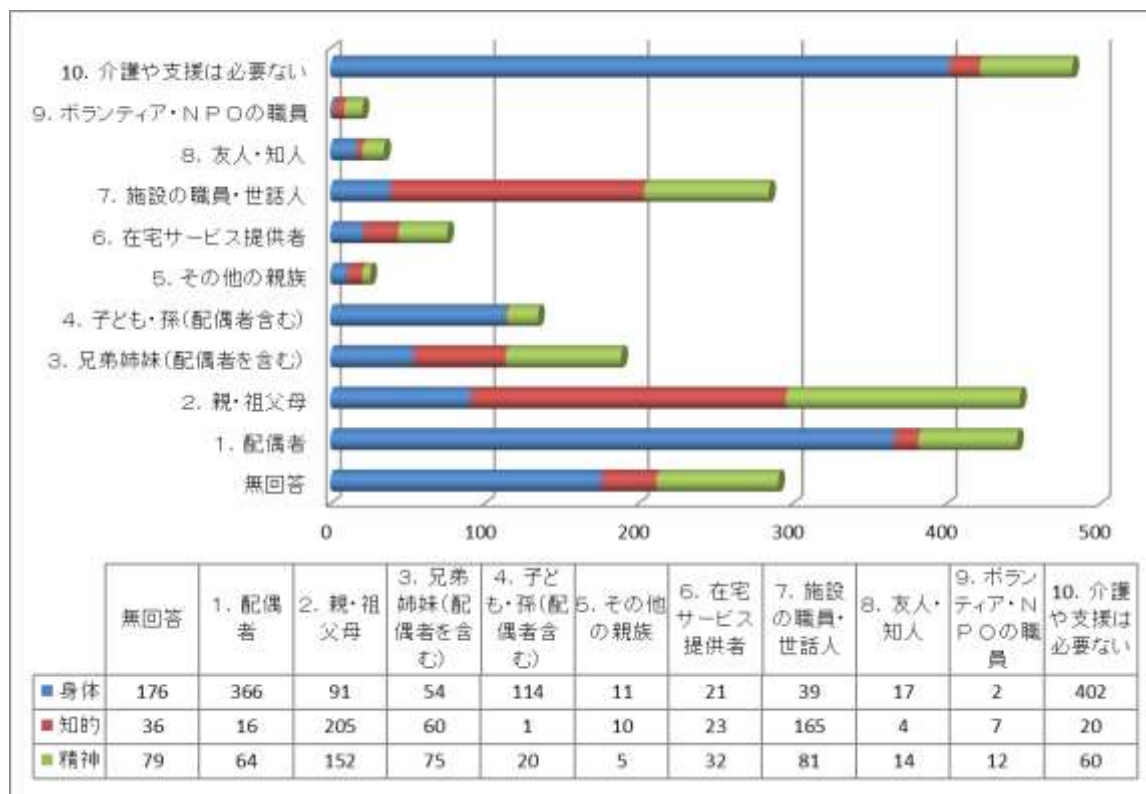
障害種別に関わらず、自宅で暮らしている方が最も多い。

問7 あて名のご本人はどなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

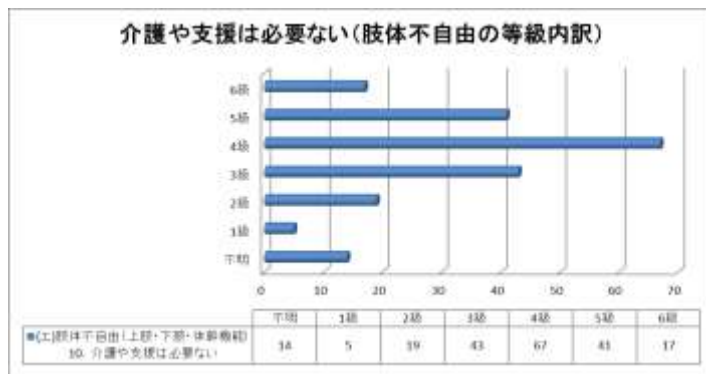
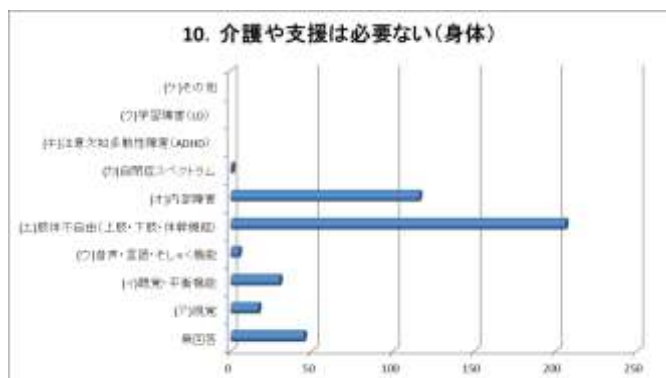
身体は、配偶者と暮らしている方が最も多く、精神、知的は、家族と暮らしている方が最も多い。

問8 あて名のご本人の介護や支援をしている人はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○、そのうち主に介護や支援をしている人1つに◎)

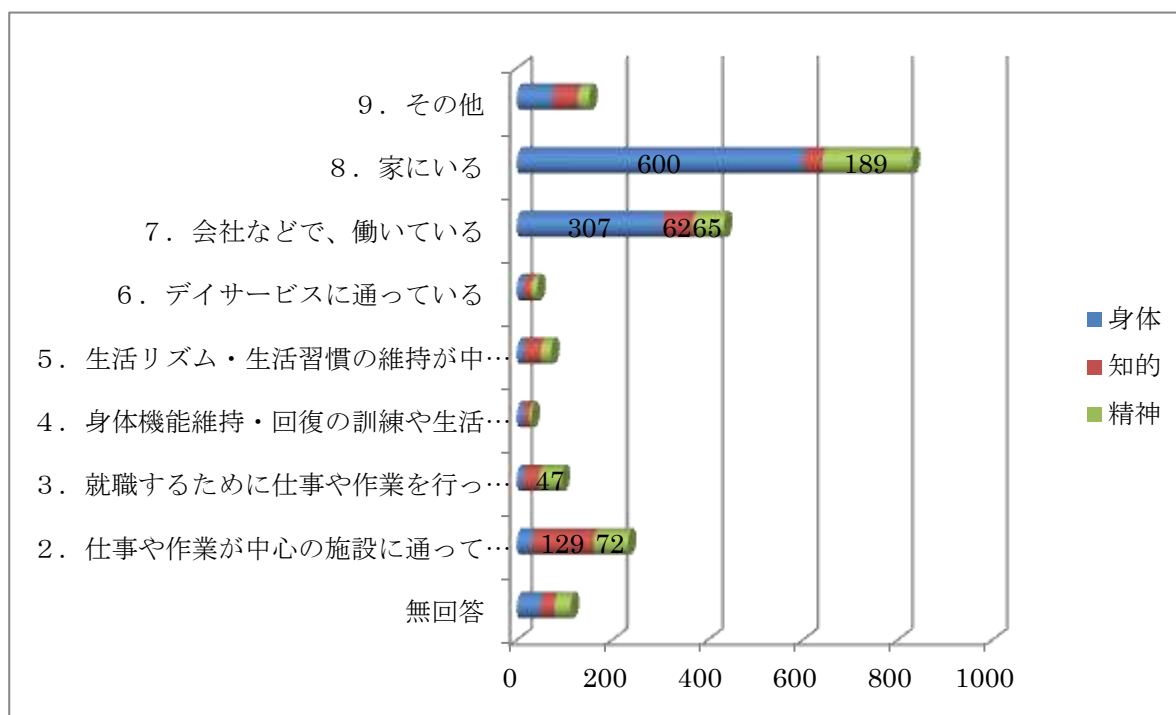


精神・知的は、親・家族の支援が最も多く、次いで、施設職員・世話人となっている。身体は、介護や支援は必要ないと回答された方が最も多く次いで、配偶者、家族等となっている。



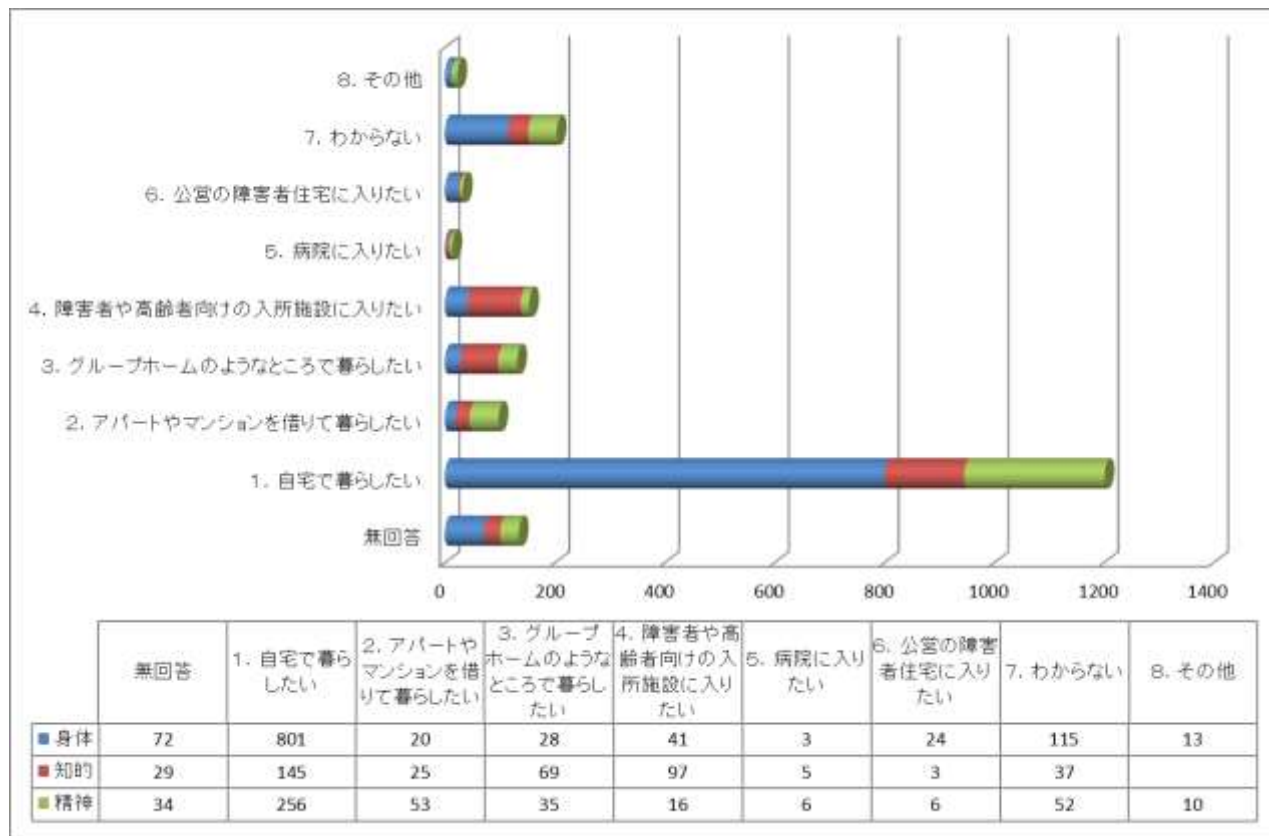
身体で、「介護や支援は必要ない」と回答された方の中で障害種別を確認すると、肢体不自由の方が最も多く、次いで内部機能障害の方となっている。また、肢体不自由の等級内訳では、4級の方が最も多く、比較的軽度の方となっている。

問9 平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(どれか1つに○)



身体は、家で過ごされている方が多く、次いで会社などで働いている。
 知的は、仕事や作業が中心の施設に通っている方が最も多く、次いで会社等で働いている方となっている。
 精神は、家で過ごされている方がもっと多く、次いで施設に通所されている方が多くなっている。グラフにはありませんが、家で過ごされている精神の年代別内訳では、40歳以上64歳未満が最も多くなっている。

問 10 ご本人は、将来はどのような暮らし方を望んでいますか。(どれか1つに○)



「自宅で暮らしたい」と望んでいる方は、身体が76.6%、知的が35.3%、精神が54.7%となっている。次いで多いのが、身体、知的では、高齢者入所施設23.6%、精神は、アパート等賃貸住宅での暮らしを望んでおり、11.3%となっている。グループホーム等のサービス利用は、身体では、3.9%、知的は、16.8%、精神は、7.4%となっている。

問 11 ご本人は、現在、働いていますか。(1つに○)

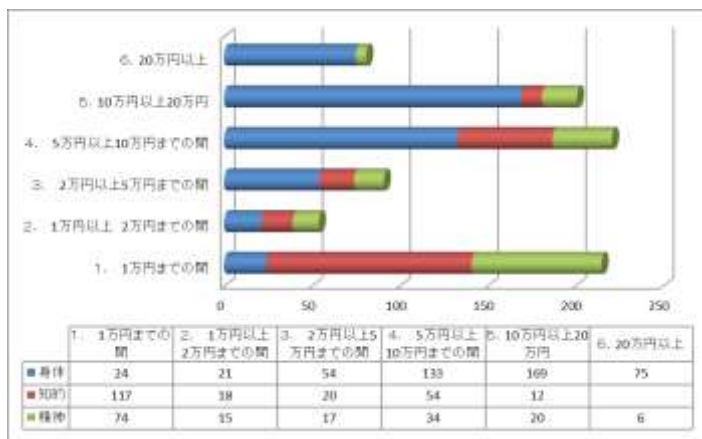
身体、精神は、働いていない方が多く、知的は、働いている方のほうが多くなっている。

問 12 働いている場所はどこですか。(1つに○)

知的、精神の就労場所としては、福祉施設が最も多くなっている。

身体で働いている方は、一般就労されている方が多く、一般就労されている方が305件、福祉施設36件となっている。

問 13 一か月でもらえる収入（月収）はどれくらいですか。差し支えない範囲でお答え下さい。（どれか1つに○）



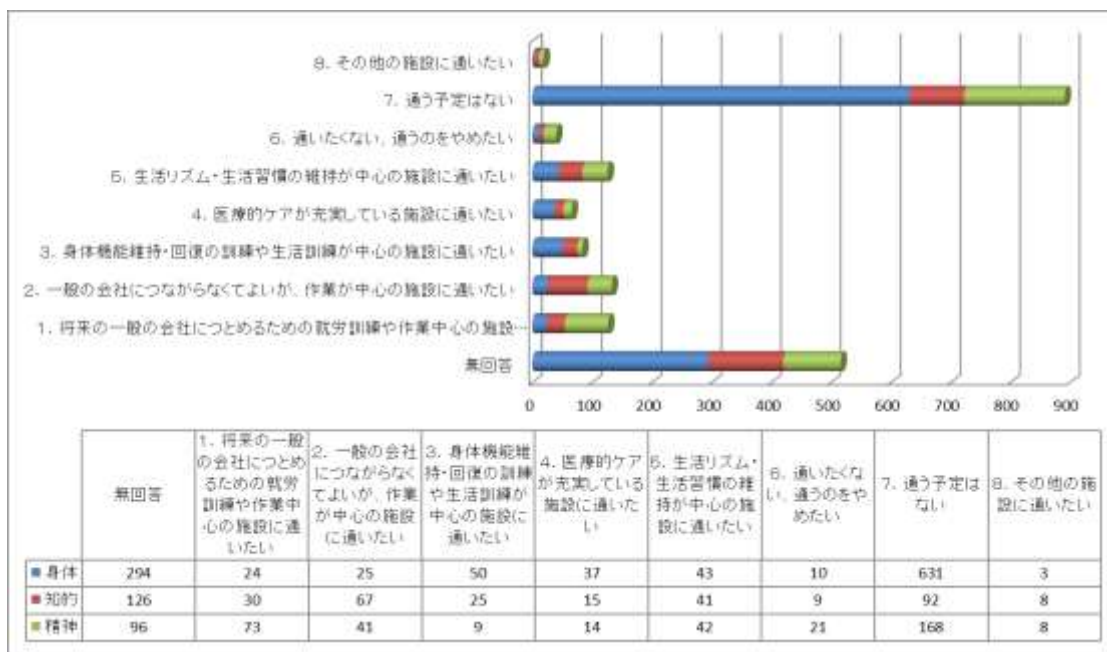
身体は、10万円以上が最も多く、精神、知的は1万円までの間が最も多い。障害種別で10倍の格差がある。

問 14 働くために重要と思われることに○をしてください。再就職の場合も含みます。（あてはまるものすべてに○）



次いで通勤手段の確保、短時間勤務や勤務日数等の配慮が働くためには重要であると考えている方が多くなっている。

問 15 あて名のご本人は、今後、施設に通いたい（通い続けたい）ですか。（どれか1つに○）



通う予定はない、無回答を除いた場合、知的は、一般の会社につながらなくとも作業が中心の施設に通いたいと思っている方が多く、精神は、将来一般の会社に勤めるための就労訓練や作業中心の施設に通いたいと考えている。

問 16 ご本人は、以下の福祉サービスを利用していますか(利用したことはありますか)。(あてはまるものすべてに○)

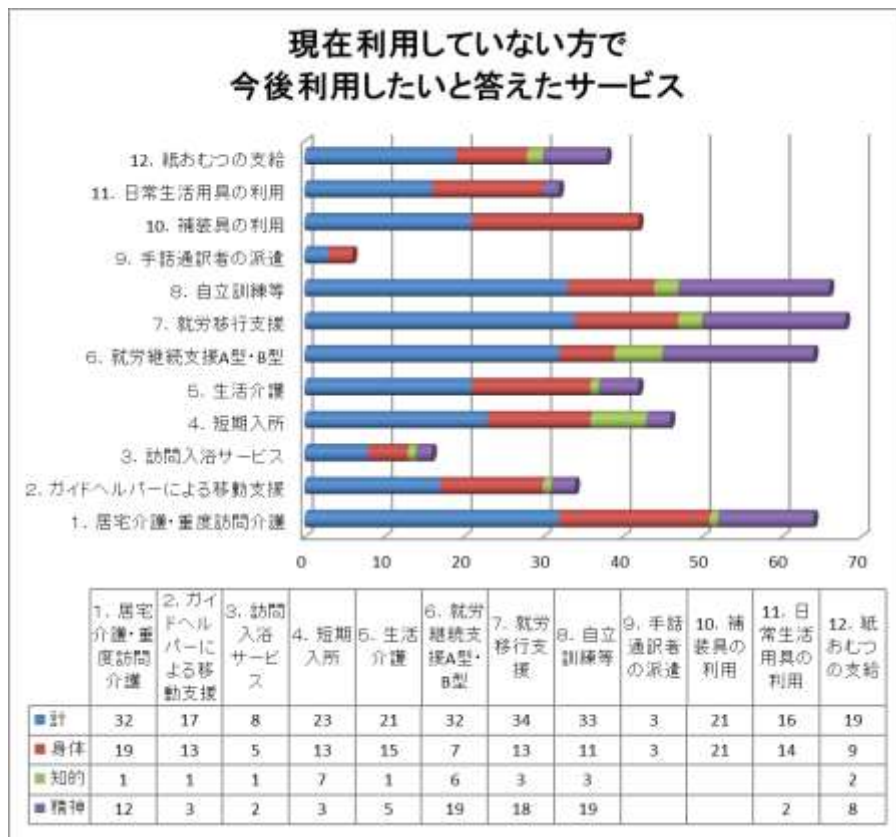
身体の方のサービス利用のほとんどは、コミュニケーション支援、補装具、日常生活用具、紙おむつ支給等の支援となっており、福祉施設等への通所利用は少ない。一方で、知的、精神は、就労継続支援、生活介護、短期入所等のサービス利用が多くなっている。

問 17 福祉サービスを利用するとき何か困ったことがありましたか。(2つまでに○)



殆どの方は、無回答か、特に困ったことはないにチェックする人が多く、チェックしたものの中では、「どんなサービスがあるのか知らない」が最も多く、次いで「どの事業所がいいのかわからない。」となっている。

問 18 今後、以下の福祉サービスの中で、利用したいサービスはありますか。

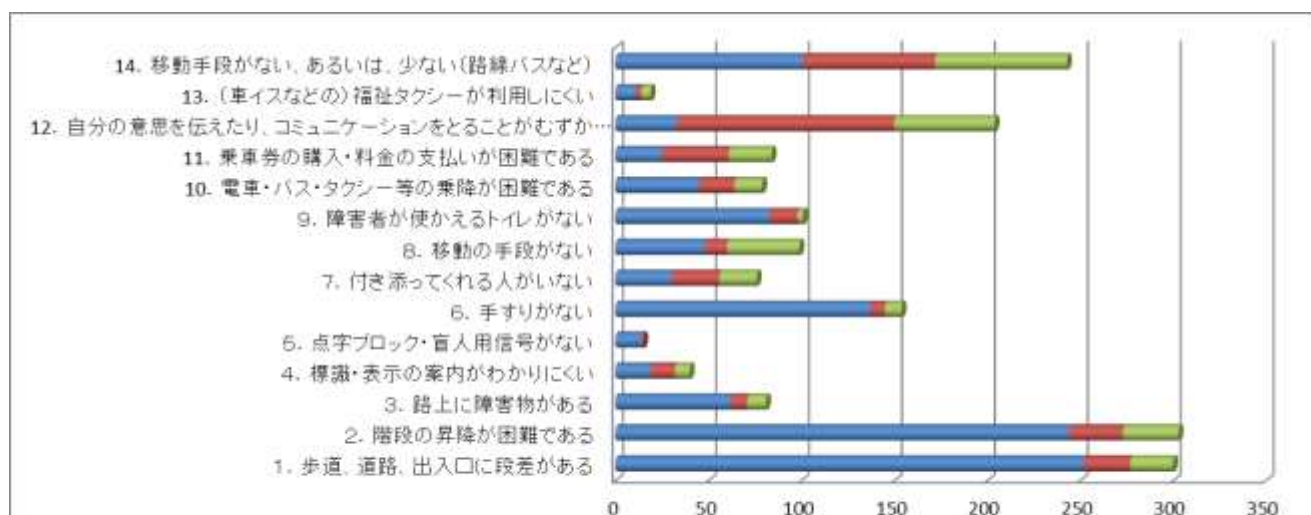
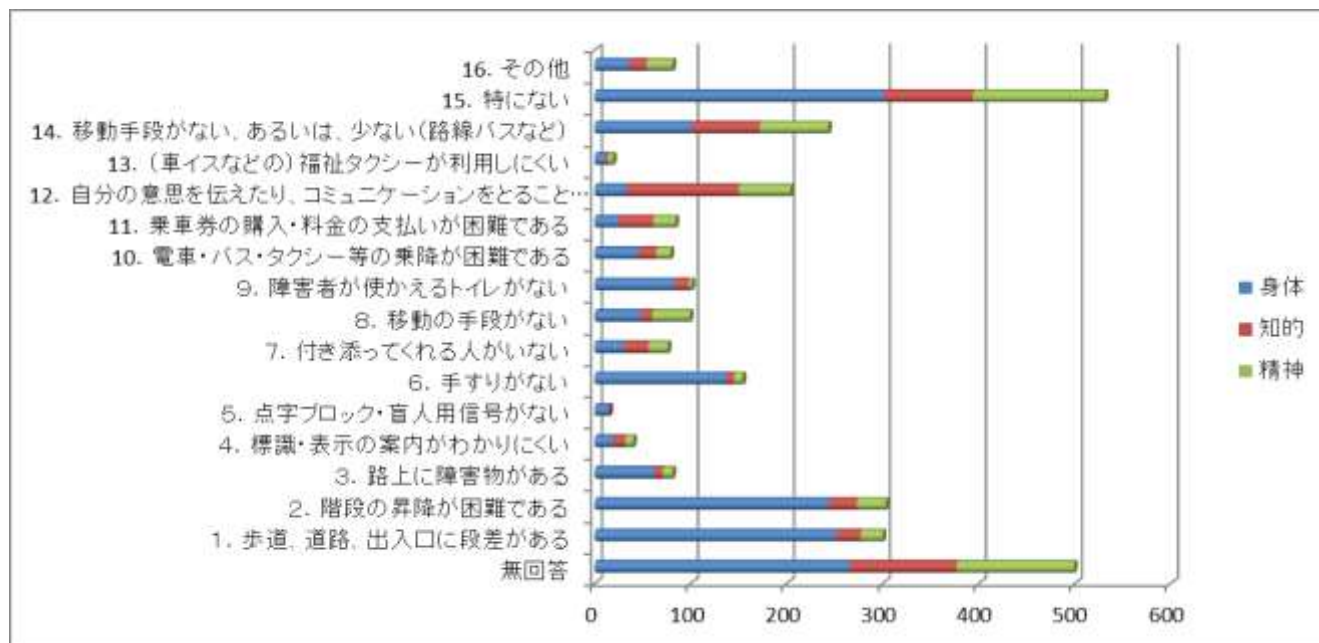


身体障害者で、これからサービスを利用したいと考えている方は、259件で最も多いのがヘルパーサービス、補装具の利用となっており、知的は、これからサービスを利用したい方が合計で34件と少ない、利用したいサービスでは、短期入所が最も多い。精神は、これからサービスを利用したいと考えている方が91件、で就労系のサービス利用を考えている方が最も多くなっている。

その他の項目で、「こんなサービスがあったら使ってみたい」と記入されたもの

- 通院時の移動支援、移動手段の確保が最も多く 15件
- 代筆・代弁、要約筆記等のコミュニケーション支援 3件
- 交流余暇支援 7件
例えば、障害者同士の交流会、余暇の有効な過ごし方等の相談や友達作り等)
- 就労支援 3件
- 冬期間の除雪 3件
- スポーツ等が出来る場所を提供してもらいたい 2件
- レスパイト支援（病院内に） 1件

問 19 外出するときに困ったり不便に感じたりすることは何ですか。(3つまでに○)



	1. 歩道、道路、出入口に段差がある	2. 階段の昇降が困難である	3. 路上に障害物がある	4. 標識・表示の案内がわかりにくい	5. 点字ブロック・盲人用信号がない	6. 手すりがない	7. 付き添ってくれる人がいない	8. 移動の手段がない	9. 障害者が使かえるトイレがない	10. 電車・バス・タクシー等の乗降が困難である	11. 乗車券の購入・料金の支払いが困難である	12. 自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	13. (車イスなどの)福祉タクシーが利用しにくい	14. 移動手段がない、あるいは、少ない(路線バスなど)
■身体	252	244	62	19	14	137	30	48	83	45	25	33	11	101
■知的	25	29	9	13	1	8	26	12	15	19	36	117	3	71
■精神	23	30	10	8		9	20	39	3	15	23	54	5	71

身体は、設備や建物などに関することに、バリアを最も多く感じており、知的、精神は、自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとること、付き添ってくれる人がいない等の人とのかかわりの中でバリアを感じている人が多い。

問20 あて名のご本人は、生活の中で悩みごとや困ったことがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

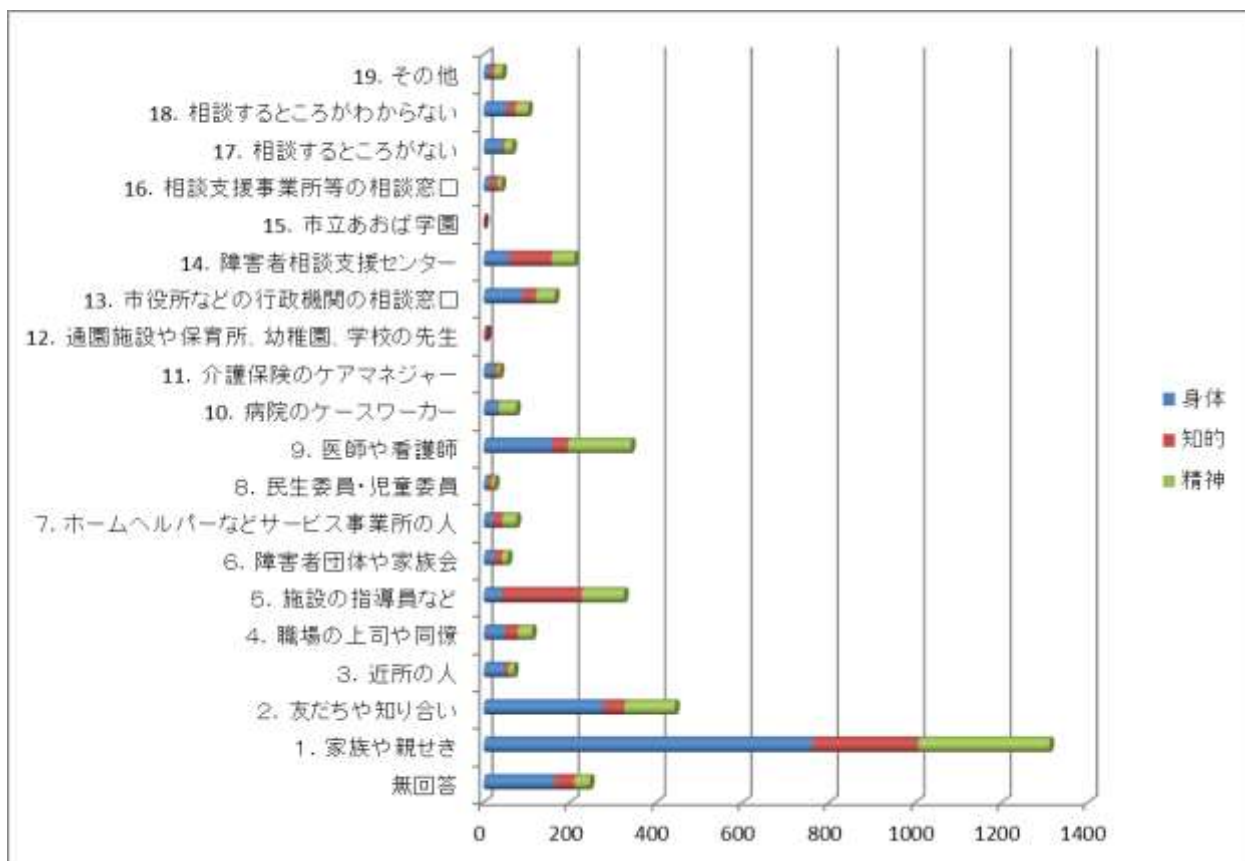
問20 悩み困ったこと	身体	知的	精神	計
無回答	429	137	90	656
1. 教育・学習のこと	12	15	20	47
2. リハビリのこと	53	9	10	72
3. お金がないなど経済的なこと	268	59	207	534
4. 家庭生活のこと	87	38	88	213
5. 現在の援助(介護)のこと	20	29	16	65
6. 将来の援助(介護)のこと	217	128	101	446
7. 仕事や会社のこと	120	43	99	262
8. 趣味や生きがいを持つこと	85	38	85	208
9. かかりつけの病院や歯科診療所がないこと	18	12	7	37
10. バスやタクシー、電車など交通機関のこと	71	43	53	167
11. 家やすまい、住宅のこと	98	27	70	195
12. 必要な情報を得ること	74	24	48	146
13. 友達や相談相手を持つこと	38	40	87	165
14. 地域の理解を得ること	38	40	42	120
15. 結婚のこと	34	18	53	105
16. 子どものこと	66	6	31	103
17. 社会参加のこと	54	28	59	141
18. 財産管理のこと	41	40	48	129
19. 近所づきあいのこと	53	32	57	142
20. その他	46	14	30	90



無回答を除き、「お金がない等経済的なこと」、次いで「将来の援助(介護等)のこと」、「仕事や会社のこと」が多くなっている。

問21 ご本人が生活をしていく上で、悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

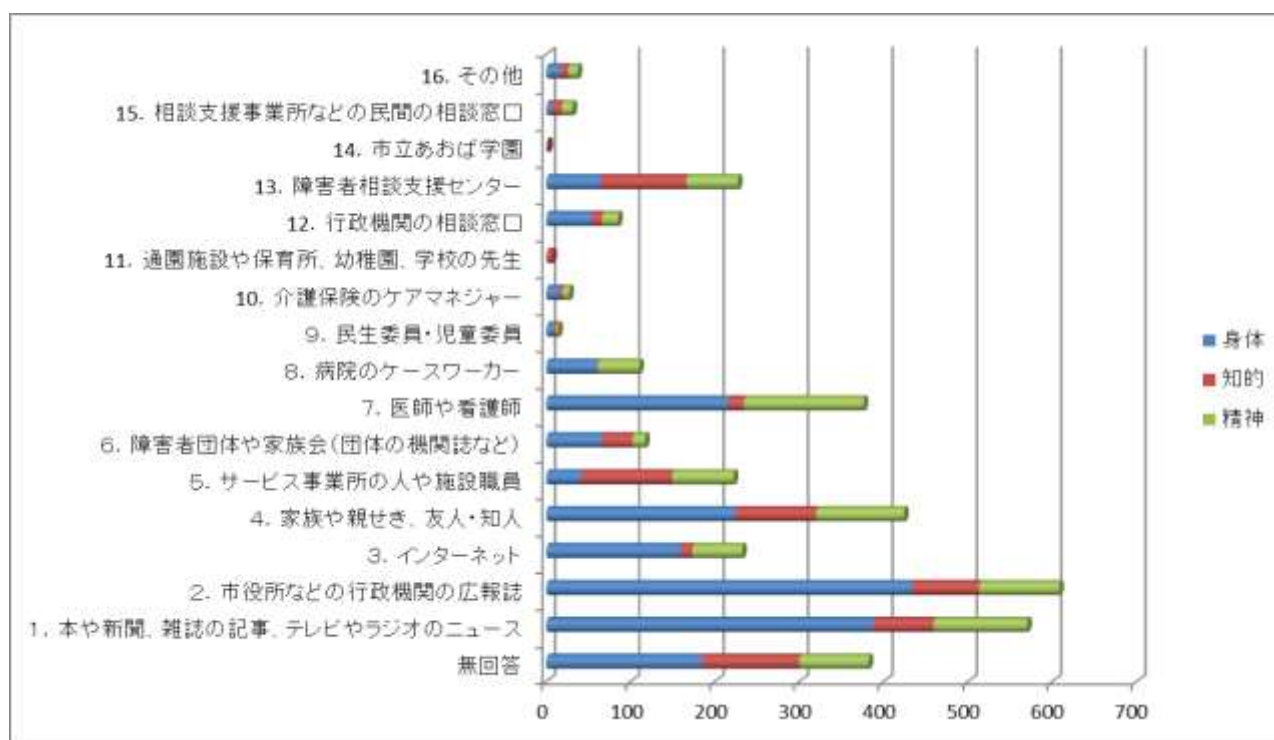
	計	身体	知的	精神
無回答	246	164	46	36
1. 家族や親せき	1310	761	245	304
2. 友だちや知り合い	443	277	49	117
3. 近所の人	70	48	9	13
4. 職場の上司や同僚	112	49	30	33
5. 施設の指導員など	325	41	186	98
6. 障害者団体や家族会	56	23	19	14
7. ホームヘルパーなどサービス事業所の人	76	20	23	33
8. 民生委員・児童委員	26	9	9	8
9. 医師や看護師	341	157	38	146
10. 病院のケースワーカー	75	31	3	41
11. 介護保険のケアマネジャー	37	22	9	6
12. 通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	7	1	6	
13. 市役所などの行政機関の相談窓口	165	90	31	44
14. 障害者相談支援センター	210	59	98	53
15. 市立あおば学園	1		1	
16. 相談支援事業所等の相談窓口	41	14	18	9
17. 相談するところがない	66	43	5	18
18. 相談するところがない	103	54	20	29
19. その他	43	14	10	19



家族や親せきが最も多く次いで、「友達や知り合い」、「施設指導員」、「医師や看護師」、「障害者相談支援センター」などが相談窓口となっている。

問 22 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

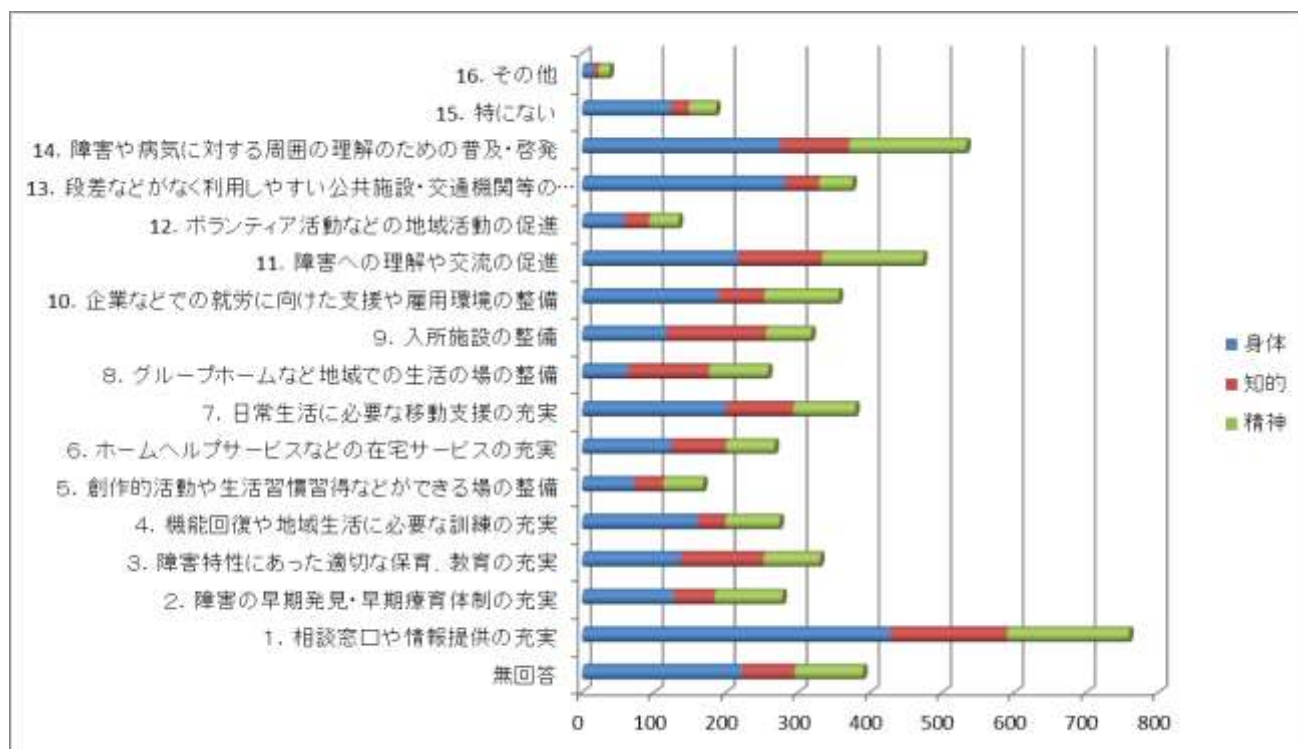
問 22 情報収集	身体	知的	精神	計
無回答	184	116	82	382
1. 本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	387	72	111	570
2. 市役所などの行政機関の広報誌	433	80	95	608
3. インターネット	159	14	59	232
4. 家族や親せき、友人・知人	224	96	104	424
5. サービス事業所の人や施設職員	41	108	73	222
6. 障害者団体や家族会（団体の機関誌など）	66	36	15	117
7. 医師や看護師	215	19	142	376
8. 病院のケースワーカー	60	1	49	110
9. 民生委員・児童委員	9	3	2	14
10. 介護保険のケアマネジャー	15	4	8	27
11. 通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生		7		7
12. 行政機関の相談窓口	53	13	19	85
13. 障害者相談支援センター	64	102	61	227
14. 市立あおば学園	1	1		2
15. 相談支援事業所などの民間の相談窓口	6	12	13	31
16. その他	16	10	11	37



本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュースから情報を得ることが多く、次いで行政機関の広報紙、医師や看護師、相談支援センターからの情報が多くなっている。

問 23 障害者が地域で自立して生活を送るために、重要と思う取り組みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

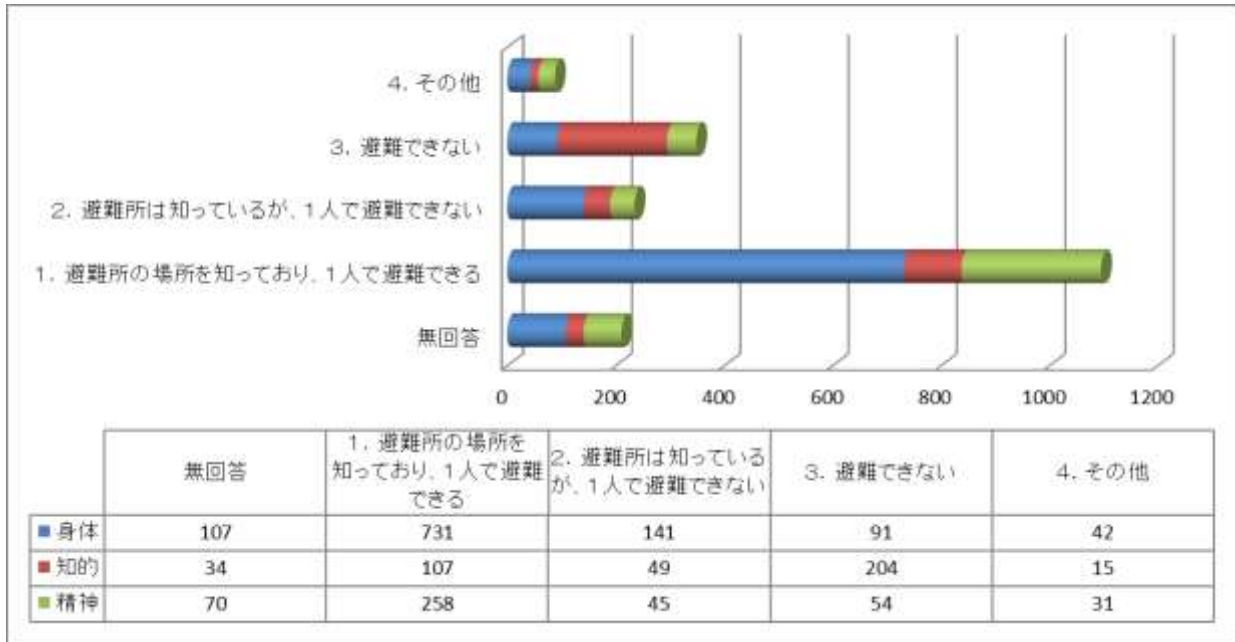
地域自立生活のため重要なこと	計	身体	知的	精神
無回答	390	222	73	95
1. 相談窓口や情報提供の充実	759	428	162	169
2. 障害の早期発見・早期療育体制の充実	278	127	57	94
3. 障害特性にあった適切な保育、教育の充実	330	136	116	78
4. 機能回復や地域生活に必要な訓練の充実	274	160	39	75
5. 創作的活動や生活習慣習得などができる場の整備	168	73	40	55
6. ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実	267	124	76	67
7. 日常生活に必要な移動支援の充実	379	199	94	86
8. グループホームなど地域での生活の場の整備	258	63	113	82
9. 入所施設の整備	318	117	138	63
10. 企業などでの就労に向けた支援や雇用環境の整備	356	189	64	103
11. 障害への理解や交流の促進	473	217	116	140
12. ボランティア活動などの地域活動の促進	134	58	35	41
13. 段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関等の整備	375	281	48	46
14. 障害や病気に対する周囲の理解のための普及・啓発	533	275	96	162
15. 特にない	186	123	25	38
16. その他	38	16	7	15



「相談窓口や情報提供の充実」が最も多く、次いで「障害への理解や交流の促進」、「障害や病気に対する周囲の理解のための普及・啓発」、「日常生活に必要な移動支援の充実」が重要と思う取り組みとなっている。

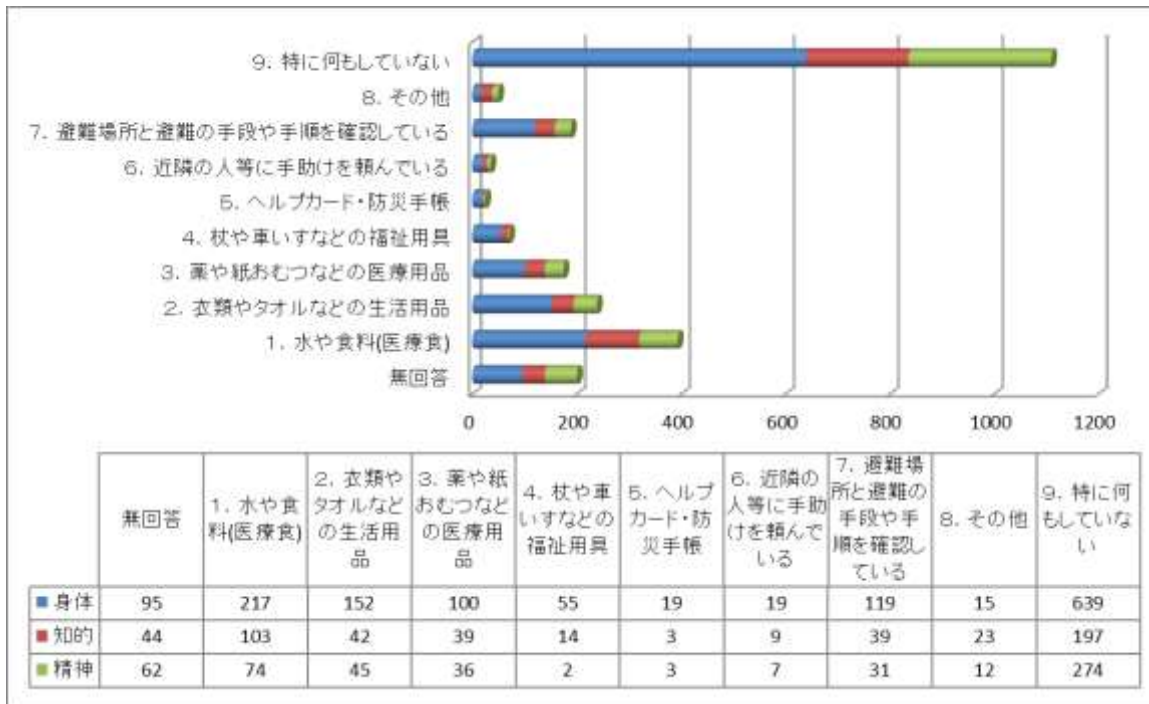
災害時のことについてうかがいます。

問 24 あて名のご本人は、1人で避難所に避難できますか。(1つに○)



身体は、約10%の方が「避難できない」となっており、また、知的の約半数が「避難できない」となっている。

問 25 災害が起こった時に備え、準備しているものはありますか。(当てはまるもの全てに○)



その他で準備しているもので最も多いものが薬となっている。

問 26 災害時の支援体制については、どのようなものを希望しますか。 (当てはまるもの全てに○)



障害者に配慮した避難所の運営、災害発生の連絡、避難所への誘導の希望が最も多い順となっている。

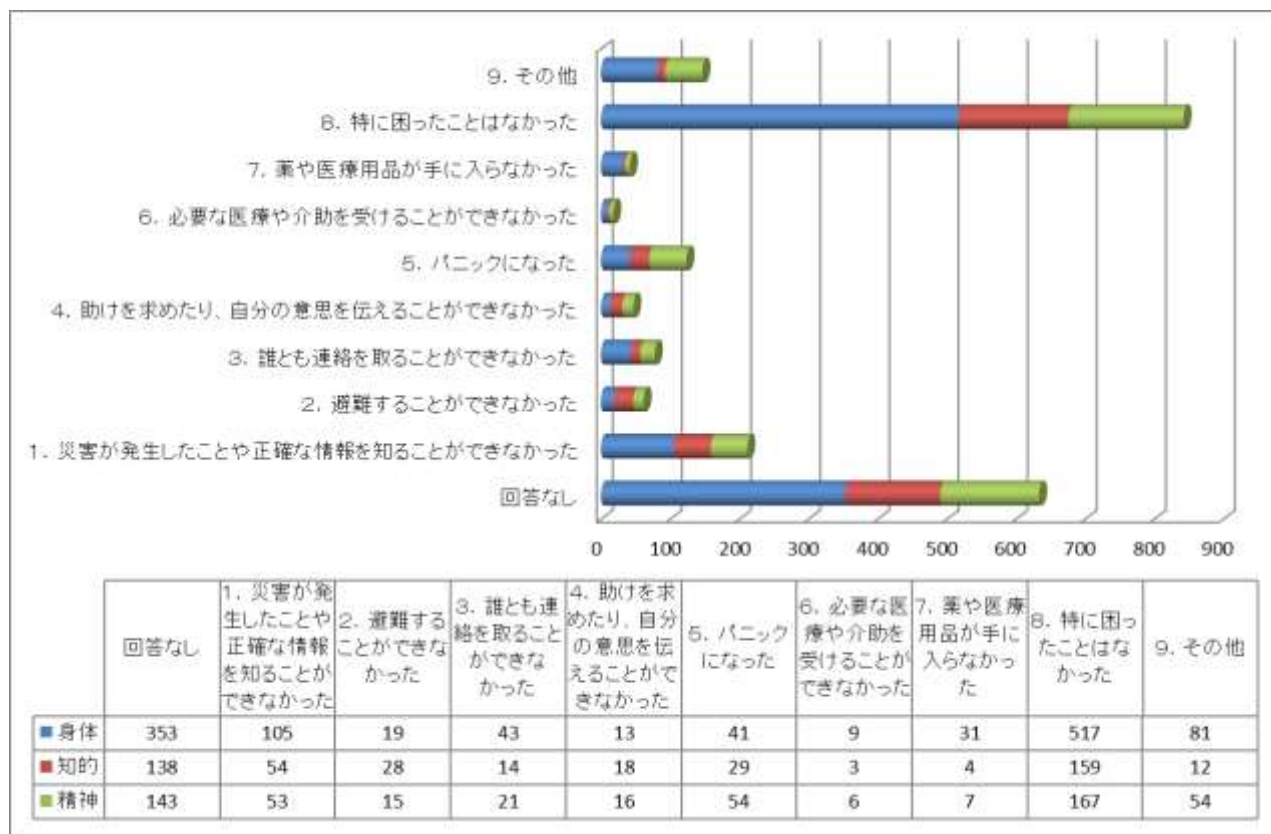
その他内容

- 正座無理なので椅子等があれば・・・長く歩くのが困難 3件
- 同じアパートの住人同士、部落内での助け合い、声掛けや交流 2件
- 災害時の薬の準備。精神科からもらっている薬を災害時ものめるように市などで備えておいてほしいです。日常薬の確保 11件
- トイレ 4件
- 緊急時の連絡は音声の主になりやすいですが、字で表示したりマークで表したり目視できるものがあるとわかりやすいし安心。(手話ができない人も多い。私もできない) 情報の入手、情報保障の充実、避難場所の通知 4件
- 老人の、車での避難誘導 1件

その他

- 自閉症の人は他の人と一緒にいられない人が多い
- 他の人と同じ所にはいられないので、同じような障害の人達に一部屋貸してほしい
- 災害時は、情報収集が全くできず、パニックになります。正しい情報をいかに届けてもらえるか大切かと思えます

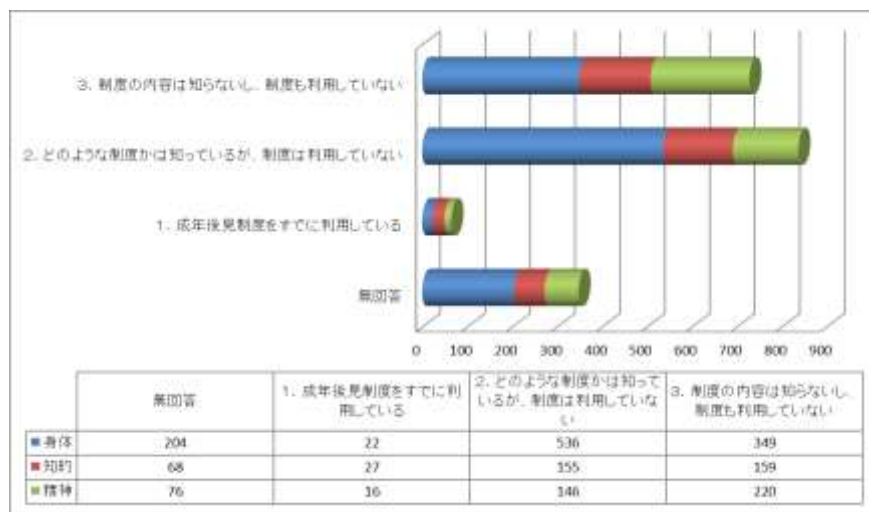
問 27 東日本大震災など、実際に体験した災害で困ったことはありましたか。
(あてはまるものすべてに○)



殆どの方は、「回答なし」、「特に困ったことは無かった」と回答した、それ以外に、最も多かったものが、「災害が発生したことや正確な情報を知ることができなかった」こととなっている。

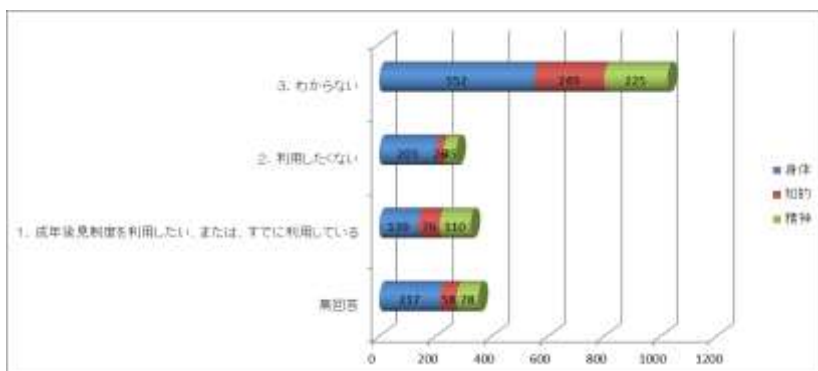
成年後見制度についてうかがいます。

問 28 「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)



知らないと答えた方は、身体で30%、知的が38.8%、精神が48%となっている。

問29 あて名のご本人が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)



全体の18.8%は、今後利用したいと考えている。

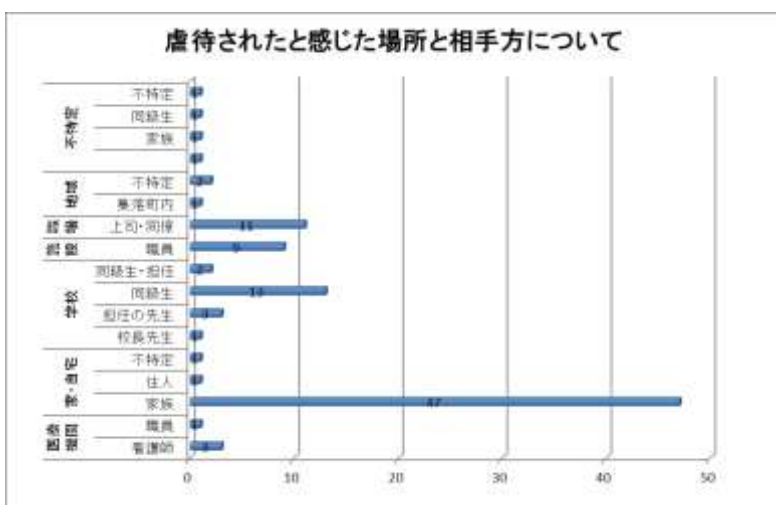
虐待についてうかがいます。

問30 これまでに虐待をされたと感じたことはありますか。(1つに○)



全体で、135件、7.8%が「されたことがある」と答えている。

虐待の相手方として最も多いのが養護者による。続いて学校時代のクラスメイト、職場の上司、同僚が多くなっている。



虐待の種別

虐待種別	身体的	精神的	身体的・精神的	性的・精神的	不明
件数	23	39	33	2	2

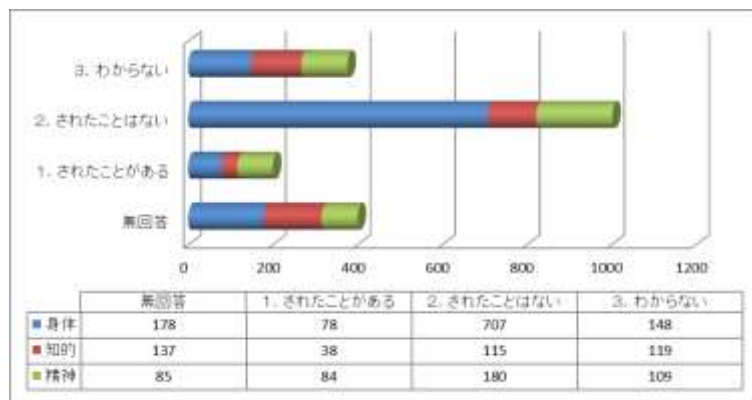
種別で最も多いのが精神的虐待で暴言、ネグレクト、放任等となっており、また、比較的若い時期に精神的な虐待を受けているケースが見受けられる。

主な相談相手

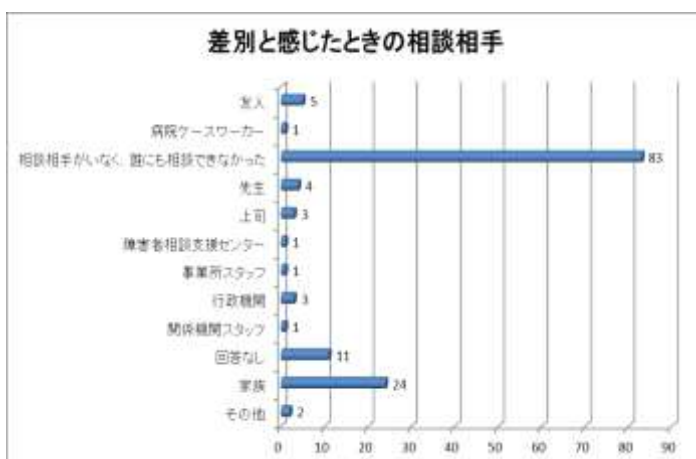
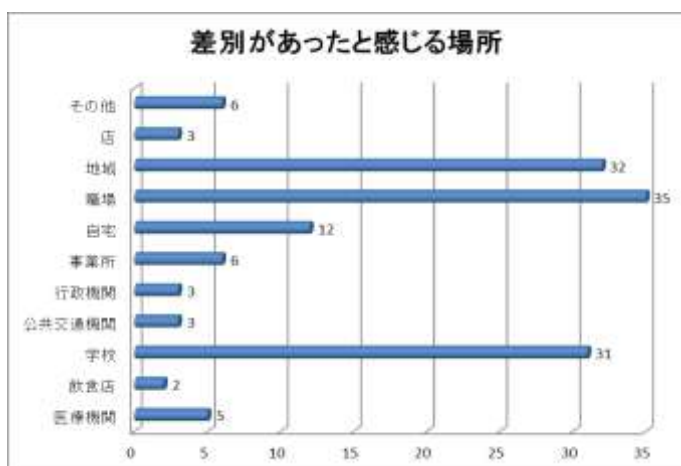
- 相談相手がいない、誰にも相談できなかった
- 福祉課・障害者相談支援センター
- 医師、訪問看護
- 家族
- 家族や親せき、友人や知人、警察等
- 警察
- 県やハローワーク等に相談したが、相談にならなかった。
- 施設の第3者委員会
- 事業所の職員、市役所の職員、医師
- 児童相談所にも相談したが、学校の立場を優先させて本人、家族の立場にはたってもらえなかった。

差別についてうかがいます。

問32 これまでに差別をされたと感じたことはありますか。(1つに○)



全体で11.5%の方が「されたことがある」と感じたことがある。



差別があったと感じたところは、職場、学校、地域となっており、差別を感じたときの相談相手は、「無い、誰にも相談できていない」が現状となっている。

差別と感じる主な内容

- 言葉の暴力、いじめ、無視された
- 学童期から普通の学校へ入れないこと
- 就職を拒否された
- 手を貸してほしいと依頼すると、汚いもの扱いされた
- 障害が分かり給料を減らされ、手帳を持っていることがばれて配置換えになり退職させられた
- いつどこで誰からということではなく、障害を持っている者は、常に健常者と一般にいられている人と比較されて日々暮らしている。
- 明確なものとしてではなく、日常の様々な場面で結構小さな差別はあったと思っています。しかし、多くは制度面、決まりになっている等と言った事で改善されることのない場合が多く、従って大元の所で既に差別はある、という仕方がないのかもしれない。例えば、街を歩く時の視線、学校における特殊学級の位置（教室配置、先生方の関わり方、内容等）療育手帳が更新されず、新しい情報が載っていない事、など。
- 直接的にはないが、自由に生活が障害者は出来ない社会だと思う。

自由記載でのご意見

相談窓口や手続き窓口での対応等に対する提言、意見、苦言など・・・27件

主な意見

- 現場を見ている人の話を聞いて現場の様子を知ってもらいたいです。障害を持っている子も親も安心して暮らせる所であってほしい。障害を持っている親も子も一緒に見てもらえる所があると、親も子も安心して生活できます。
- 問題や情報等、相談窓口へ連絡あるいは訪れるようにとのことですが、市で障害者を把握しているので、市担当者が本人の元に出向いて話を聞いても良いと思います。(数年に1回程度であっても)
- 相談窓口や手続き窓口が複雑で困っています。総合案内所ですべてできるよう対応をお願いします。役所での月～金では対応をお願いできません。土日祝も対応できるようお願いします。(月1～2回でも)手続きの案内文書が理解できません。もっと分かりやすく簡潔に。
- 障害年金の申請の時(相談も含)、行政の窓口の人の対応がその時々で異なり、とても困ったので、把握、理解している人が的確に対応してもらいたい。

障害福祉制度やマイナンバー制度等の制度に対する提言、助言、苦言など・・・89件

- 障害についてガイドブックのようなものがあれば、該当者にぜひ配布をお願いしたい。年々制度やサービスが変わっているので何年かに一度に配布を受けることができればありがたい。
- 補装具の更新を3年位に更新ご要望したい。
- マイナンバー制で、逆に二度手間となり行政サービスは低下している。
- 医者に通院する時、タクシーで行く時は医療費より多額になり大変です。こんな時、福祉タクシー

みたいに何人か乗せてもらえる制度があると助かります。タクシー券、もっと増やしてほしいです。

- 国の障害者自立支援政策は、グループホーム等での生活から、地域へ戻して社会の中で自立して生活をする方向へ移行していくとのことですが、私(親)としてもその趣旨を否定するものではありません。しかしながら、下記の現状を考慮すれば、親亡き後に支援者もなく、障害者だけで日常生活を送ることは困難です。当市独自の市制として、地域と共に暮らすことのできる障害者への支援を充実してほしいと切望します。
- 何でも申請ありきですが、障害者は申請すること自体難しい。
- ストマ用具にかかる費用は年間30万円を超えています。これは年金生活者にとっては大変な負担になっています。ストマ用装具給付を大幅に増額していただければと思います。
- 学校を卒業してしまうと、新しい情報が入りにくくなります。「福祉課に来ればいつでも教えますよ」ではなく、色々な情報(特に法の変化、制度の変更等)は、事業所単位とか、その他機会を見つけて(作って)教えてほしい。親の会から情報を得なさいというのは、本末転倒ではないかと思っています。このアンケートがもとになって、どのような点が改善されたり、新たな取り組みがなされたりしたのか、についても、知る機会があれば嬉しく思います。

障害者への配慮、理解、障害に対する理解、地域住民の理解等意見など・・・79件

- 障害の事をオープンにし、どんどん外へ連れ出したいと思います。そんな中で、1人でも多くの理解者を増やしたいと思います。ただ、親がいなくなった後の事は心配です。障害者への深い理解を求めます。
- 障害についての理解がやはり一番大事だと社会に出るようになって思います。
- 社会全体は障害者にとっては生きていくのが大変辛くて、難しい問題です。金銭面があるので、辛くても会社を辞められない。無理をする、病気が悪化、入退院の繰り返し。もう少し、職場復帰後の理解がほしいです。
- 精神障害者にとっては、まだまだ理解してもらえない社会の中では、毎日が生きづらいです。
- まだまだ障害に対しての理解も不十分な点も感じていますが、感じ方も個人の違いもあり、実際同じ障害でないと理解できないと思います。障害があっても仕事出来る環境に感謝していますが、やはり雇用形態も不十分で、結局退職を考えさせられるのも現実です。
- 社会の障害者の障害に対するきちんとした理解が得られるようになってほしい。
- 「障害者を理解する」イベントや研修があると、車いすの人、体の不自由な人の事ばかりで、自閉症や重度知的障害の人の困っている所に目が向けられる事がない。
- 障害者として生きる社会への理解は以前に比べ、だいぶ開けてきたと感じる一方で、まだまだ健常人(?!!)に比べられ、差別的に受け止めざるを得ないことが多々あります。それは私の受け取り方次第だと一方的に言われると、「やはりこの方に理解は無理だ」と勝手に悲しくなります。市民の方々の温かく協力的なサポートを期待してやみません。
- 障害に対する理解のための普及啓蒙が必要だと感じます。
- 娘はなかなか難しい自閉症で、自分の意思を上手く伝えられず、小さい子の声やせきなどに異常に敏感でパニックになったりします。自閉症の為の入所施設があるといいと思います。難しいと思いますが、実現できたらと切に希望します。
- 「障害者差別解消法」に基づく、地域支援協議会の設置(至急)「障害者優先調達法」に基づく、市役所内各部局一体的運用、そのための健康福祉部の指導的役割の発揮を果たしてください。

親亡き後の将来への不安等に対する意見など・・・31件

- 将来親族亡き後、障害者が安心して暮らすことの出来る様、福祉施設の充実、職員の雇用が望まれます。
- 今、悩んでいるのは運転できなくなることです。医者通いの多くなるのはこれからです。鶴岡市が一番遅れていて、何の対策もなし、隣接の地域は、支給されているようだ。私のところは、電車にのるのも距離がありすぎるし、何らかの対策を取ってほしい。
- いつの間にか親も子も歳を取り、それでも「施設入所」とは、なかなか決断ができない今日この頃を送っている親達はたくさんいます。それはここに入所したら幸せに暮らせるだろうと思える施設が一つもないという事です。障害者が健常者と変わらずのびのびと暮らせる世の中に早くなってほしいです。
- 家庭的雰囲気ของกลุ่มホームが理想と思ってきましたが、施設入所の方向で考えないといけないとなりました。できることなら、市内にもっとたくさんのグループホーム開設と夜間の支援員配置になることを希望します。
- 視覚障害の人は特に仕事はないに等しいと思う。自分自身もこれ以上見えなくなったらどのように生活出来るのか不安である。その時に備えてどのようにしたらよいのか、その時になってから行政に相談してすぐに対応してもらえるか不安である。
- 障害者と親の高齢化、親が介護保険の対象になっても障害のある子供の面倒を見なければならない。障害者本人は、グループホームでの生活に不安があり、また、施設でもある程度自立度の高い障害者を入所させたがる。親と障害者が安心して暮らせる共生施設が必要。民間や法人のみの力では困難がある。行政指導で取組、指定管理者制度で運営するなどもっと障害福祉に力を入れてほしい。民間任せでは本当の安心安全は期待できない現状です。

障害者雇用等仕事に関するご意見等・・・15件

- 職場復帰で、一般社員と同じ対応で（健常者）当たり前には仕事ができないと、仕事ができない人と見下され、いじめ、嫌がらせを受ける。
- 障害者は雇用しない規則がある企業が多い。もっと門戸を開いてほしい。
- 障害者雇用の間口を広げて頂きたいです。例えば企業側への助成金の拡充。永年助成にするとか。市内の大手企業は障害者雇用率を達成していると受け入れない様な…。(特に工業団地)
- 自分のような発達障害のある者でも、企業側で理解してくれて長く働かせていただければと願っています。その為にも障害者サポートセンターの方々の手助けをお願いできればとても有りがたいです。

年金制度等の収入に関するご提言、ご意見、苦言など・・・21件

社会参加、移動支援等に関するご意見等・・・6件

通院、医療費、意思疎通に関するご意見等・・・8件

アンケート調査に関するご提言、ご意見、苦言など・・・9件

その他市政に対するご提言、ご意見、苦言など・・・36件